

1 民主政治とその基本原理①

STUDY A

1 政治の意義と国家

- 1 [① 政治] 社会秩序を維持するための社会的強制をともなう営み。
- 2 国家 ①の基本的単位として一定の領土内において強制力を合法的に独占しているのが[② 国家]である。
- (1) 権力 ②の持つ強制力が[③ 政治権力]である。
- (2) 国家が存在するためには、一定の[④ 領域]と[⑤ 国民]、そして[⑥ 主権]が必要で、[⑦ 主権国家]という。
- (3) 巨大化し、充実した福祉、公共サービスの提供などを行う現代国家は[⑧ 福祉国家]であり、近代の[⑨ 夜警国家]とは異なる。

2 絶対王政と市民革命

- 1 古代の民主政治 [⑩ 民主政治]の原形は、古代ギリシャのポリスの[⑪ 直接民主制]である。
- 2 絶対王政と市民革命
- (1) [⑫ 絶対王政] 国王が無制限の権力で国家を支配する体制。国王の権力は、神から授けられるとする[⑬ 王権神授説]が説かれた。
- (2) [⑭ 市民革命] 経済力を持った[⑮ 市民階級]が、政治的・経済的な自由や権利を求めて⑭をなしとげた。

3 社会契約説

- (1) [⑯ 自然法] 思想 市民革命を支えた思想。人間は、⑯に基づき生まれながらに[⑰ 自然権]を持つ。
- (2) [⑱ 社会契約説] 近代市民社会の基礎となった思想。国家や社会は人々の契約によって形成されたとする。
- (3) [⑲ ホッブズ] 『リバイアサン』で、自然状態の下で人々は⑰を持つが、そのままでは「[⑳ 万人の万人に対する闘争]」が生じるので、各人が契約を結び、⑰を国王に[㉑ 譲渡]することを主張した。
- (4) [㉒ ロック] 『統治二論』で、人々は、自然状態で持つ⑰を守るために、契約により国家を作るとした。国家が⑰を侵害するようなことをすれば、人々は[㉓ 抵抗権]（革命権）により政府を変更できるとした。
- (5) [㉔ ルソー] 『社会契約論』で、人民に主権があり、主権は全人民の共同の利益を追求する[㉕ 一般意志]に基づいて行使されると説いた。この[㉖ 人民主権]の理論はフランス革命に影響を与えた。

1 民主政治とその基本原理①

◆行間色文字

強制力 : この強制力を, 一般に権力という

[④ **領域**] : 領土・領海・領空

[⑥ **主権**] : 国家権力の最高性, 対外的独立性, 最高権力の所在をいう

[⑨ **夜警国家**] : 国家の機能は治安と国防など最小限度のものに限る

[⑩ **民主政治**] : (デモクラシー)

[⑪ **直接民主制**] : 女性や奴隷は除かれた

[⑬ **王権神授説**] : イギリスのフィルマーやフランスのボシュエなどによって唱えられた

[⑭ **市民革命**] : イギリスのピューリタン革命・名誉革命で幕を開け, アメリカ独立革命やフランス革命に引き継がれた

[⑮ **市民階級**] : (ブルジョアジー)。経済力を持った商工業者

[⑯ **自然法**] : 人が定めた法ではなく, 自然をもととして存在する人類普遍の法のこと

[⑰ **自然権**] : 天賦人権ともいう

自然状態 : 人々が契約によって社会・国家を作る前の状態

『**統治二論**』 : 『市民政府二論』ともいう

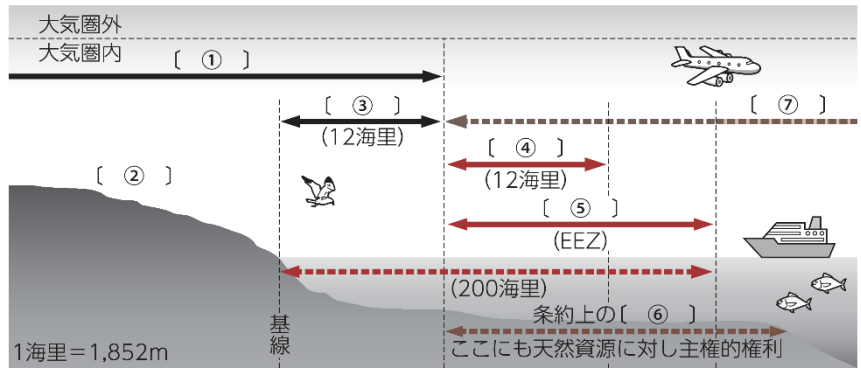
[⑳ **抵抗権**] : イギリスの名誉革命の理論的背景となる

[㉔ **一般意志**] : 個人の利益である特殊意志を集めた全体意志を批判した

1 民主政治とその基本原理①

STUDY B

Q 次の表中の空欄〔 ① 〕～〔 ⑦ 〕にあてはまる最も適切な語句をあとの〔 〕から選んで答えよ。



〔接続水域 領海 公海 排他的経済水域 大陸棚 領空 領土〕

① 領空	② 領土	③ 領海
④ 接続水域	⑤ 排他的経済水域	⑥ 大陸棚
⑦ 公海		

STUDY C

●1. マックス・ウェーバーは支配の正当性（正統性）を大きく三つに分類した。この分類に**該当しないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。
〔20 センター試験（政経）・本試〕

- ① カリスマ的支配
- ② ポリス的支配
- ③ 合法的支配
- ④ 伝統的支配

②

●2. 国連海洋法条約が定める内容についての記述として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
〔19 センター試験（政経）・本試〕

- ① 公海では、すべての国に航行の自由が認められるわけではない。
- ② 大陸棚の幅は、沿岸国の基線から測定して200 海里を超えることはない。
- ③ 領海の幅は、沿岸国の基線から測定して最大3 海里までである。
- ④ 排他的経済水域では、沿岸国に天然資源を開発する権利が認められる。

④

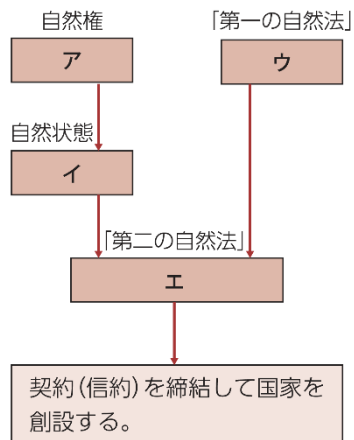
●3. 生徒X は、そもそも国家はなぜあるのかについて興味があり、ホブズの『リヴァイアサン』を読み、議論の流れや概念の関係を整理した図を作った。次の文章a～dは、『リヴァイアサン』の一節あるいは要約であり、図中の空欄 **ア**～**エ** には、a～dのいずれかの文章が入る。空欄 **エ** に入る文章として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。
〔21 共通テスト（政経）・第2〕

- a 人は、平和と自己防衛のためにかれが必要だとおもうかぎり、他の人びともまたそうであるばあいには、すべてのものに対するこの権利を、すすんですてるべきであり、他の人びとに対しては、かれらがかれ自身に対してもつことをかれがゆるすであらうのと同じおおきさの、自由をもつことで満足すべきである。
- b 人びとが、かれらすべてを威圧しておく共通の権力なしに、生活しているときには、かれらは戦争とよばれる

1 民主政治とその基本原理①

状態にあり、そういう戦争は、各人の各人に対する戦争である、ということである。

- c 各人は、かれ自身の自然すなわちかれ自身の生命を維持するために、かれ自身の意志するとおりに、かれ自身の力を使用することについて、自由をもっている。
- d 各人は、平和を獲得する希望があるかぎり、それにむかって努力すべきであるというのが、理性の戒律すなわち一般法則である。その内容は、「平和をもとめ、それにしたがえ」ということである。



① a ② b ③ c ④ d

①

(出所) 水田洋訳『リヴァイアサン (一)』による。表記を一部改めている。